

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100166		
法人名	医療法人至誠会		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字本庄264-1		
自己評価作成日	令和3年8月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年10月14日	外部評価確定日	令和3年11月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の近くには住宅地、建物の前には託児所があり地域の皆様の生活を感じながら落ち着いた環境の中でお過ごしいただけます。  
日常生活では、入居者様に調理や洗濯物たたみなどの家事を行って頂いており、一人ひとりが役割を持てるよう支援しています。また定期的な個別のカンファレンスの他、月に一回利用者会議を行い、利用者様の意向に沿った支援ができるよう配慮を行っています。接遇面についても、職員一人ひとりが利用者様へ敬語での声かけを行っており、丁寧な対応を心掛けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームあかりは、医療法人グループの一事業所でもある為、医療面のサポート体制、何かあった際の応援・協力体制がある事が強みである。  
また、ホームでは、入居者様への接遇面に力を入れられており、特に言葉遣いが丁寧である。職員には、入居者様の意向を汲み取り、それを実践しようという意識がある。毎月の研修もサービスの質の向上に繋がっている。入居者様は、思い思いに過ごされ、ホーム内全体が穏やかでゆったりとした時間が流れている印象がある。  
現在、新型コロナウイルス感染予防対策で外出ができる状況にはないが、敷地内の散歩はされている。隣接する保育園の園児の姿を見たり声が聞こえ、川も流れており、敷地内でも十分自然や地域を感じられる環境である。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援する」という理念をあげている。事務所の見やすい箇所に掲示している。	理念は毎月第一月曜日に唱和されており、職員に共有出来ている。 「その人らしく」を汲み取る為にも、毎月の『利用者会議』で入居者が思い思いに話される機会は有益な場となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルス感染予防の為、地域行事への参加は行っていない。	新型コロナウイルス感染予防対策で地域との付き合いは現在は出来ていないが、以前は慰問の受け入れ等交流があった。運営推進会議の資料は、自治会長には配布している。 法人内職員の慰問は実施されており、病院職員が筋肉の話をしたり、体操したりすることがあった。また、ホーム職員が音楽療法を勉強・実施しており、院内研究発表会のテーマともなっている。別事業所職員が来訪するだけでなく、ホーム職員が別事業所に出向く事も期待でき、コロナ禍が落ち着けば、地域への介入にも繋がると思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在新型コロナウイルス感染予防の為、地域行事への参加は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在新型コロナウイルス感染予防の為、行っていない。2ヶ月に1回運営推進会議録を自治会長、おたっしや本舗に郵送を行っている。	コロナ禍で、書面会議が続いていたが、今月(11月)は少人数ではあったが、会議を開催し、地域包括支援センターからの参加があった。コロナ禍での他施設での取り組み状況や認知症カフェなどの開催状況の確認、その他相談を行っており、自施設サービスに活かしている。 本来であれば、自治会長や、法人内施設代表者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等あれば、電話連絡や行政の窓口を訪ね、事業所の状況や課題解決に向けた話し合い等を行っている。	最近では、人員配置や減算についての問い合わせ・確認を行ったとの事。また、集団指導への参加が出来なかったため、資料のやり取りを行われたとの事。 必要時には行政へ相談されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学ぶ機会がある。 ドアについては、新型コロナウイルス感染予防の為、現在は閉鎖して対応を行っている。	現在身体拘束は行っていない。言葉遣いに力を入れられており、スピーチロックも聞かれない。 研修はホーム内で2回、オンラインで1回行われており、拘束による弊害等も十分理解できる機会・体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、研修で高齢者虐待について学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年齢層が高くなり、家族様より相談を受けることも出てきており、家族様から問い合わせ等あれば助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から当施設について説明を行ない、契約の際も家族の話に耳を傾け、質問等に対しても出来る限りの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な苦情受付窓口も重要事項説明書に記載し、契約時に説明を行っている。	建物入り口に意見箱はあるが、ほとんど入っていない。電話連絡や面会時に話す事が殆どだが、運営に関してはあまり意見はない。 現在は、コロナ禍でもあり、管理者がこまめな連絡を心がけておられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日15時からカンファレンスの時間を設けており、意見等あればそこで、話し合いを行っている。また月に1回の会議にて出された意見や提案に対して、出来る限り反映できるように取り組んでいる。	カンファレンスでは、業務の改善点などの話が出る。管理者も現場で業務することもあり、いつでも意見が言える環境である。また、普段から言いやすい関係性でもある。有給休暇に関することなどの意見が出る。管理者も法人上司に何かあればすぐに相談できるとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業もはほとんどない。また、年に2回評価をつけ、結果が個人に渡される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修の機会は作れていない。施設内では、月に一回勉強会を行い、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんど行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された際、再度要望等を本人に確認している。本人が不安なこと等を話しやすいようにアセスメントの生活歴などを参考に世間話を交え、話に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入居の際はご家族から不安なこと等が聞かれるため、極力時間をかけ、要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が不快にならないように声掛け等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、注ぎ分け、洗濯ものたたみ、掃除など入居者様のADLに応じて、職員と共同で行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とはガラス越し面会にて交流あり。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、実施できていない。	現在、面会は玄関のドア越しとなっており、家族以外の面会も可能だが、今のところ、家族以外が来られることはないとの事。携帯電話を持って来られている方が4名おり(うち1名はオンライン面会の為にタブレットも持参)、携帯電話の使用はできる。また、ホームに電話があり、家族の承諾があれば、知人なども取り次ぎ可能となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回利用者会議を実施し、利用者様一人ひとりの意見反映ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係が途絶えているのが現状である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居の際やケアプラン作成の際など本人様の要望を伺ったり、表情等をみたり、ご家族様からの要望や希望などを聞くように努めている。 入居後は本人様と話す機会を定期的に設けている。	入居者様は、マンツーマンだとあまり要望等言われませんが、普段の会話や利用者会議での発言を活かし、意向を汲み取っている。 利用者会議では、テーマを決めて思い思いに話してもらっている。東京オリンピックの思い出や戦争の話、食べたいもののお話など、内容は多岐にわたる。食べたいもので「寿司」があがり、食事時に提供したこともある。 利用者会議を行う事で、職員が利用者の思いや意見を吸い上げる意識が高まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が仕事をされていた時や趣味の話などの生活歴を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の状態を観察し、本人とお話をしたり、職員より、状況の報告を受け現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を職員間で行っており、介護計画を作成している。家族とは電話にて話をし、意向の徴収等を行っている。	ケアプランは3か月ごとの見直しとしている。担当者会議では、管理者(計画作成担当兼務)、看護師、介護士の3名以上が出席している。ご家族にも現状をこまめに報告・説明されており、現状に即したプランになっている。目の見えない方で「歩きたい」と要望があり、歩行訓練を実施されている。現状を踏まえて出来る範囲のプラン作成、実施となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や気づきなどを記入するようしており、特に気になることがあればその都度記録、報告を行っている。個別記録、申し送りノートは出勤した際には確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	見学の際や、入居後も要望やニーズに合わせて、問い合わせがあれば同法人の他の事業所を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域資源の活用は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人であるなゆたの森病院が協力医療期間であり、月に2回往診に来ていただいている。 その他の眼科などはご家族に協力してもらい、定期的に受診されている。状況に応じて職員が同行し、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	入居時には、かかりつけを協力医療機関であるなゆたの森病院に変更されている。月2回往診と、夜間のオンコール対応があり、医療面でのバックアップ体制が取れている。日中は看護師がおり、異変等の対応、受診の判断等をされ、必要時は点滴等を行う体制がある。 他科受診時は、ご家族対応となっている為、状況を口頭で説明し、受診に繋がられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師配置。必要時カンファレス、また、月に一回の会議の中で、情報交換を行い、適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に入院する機会が多いため、ソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を契約時に説明・同意を取っている。 終末期については意思確認をとっており、本人の状態に応じて病的な部分では医師、看護師等から説明してもらい、それを基に事業所で出来る事、できないことについては説明を行い了承して頂いている。また、方針なども共有している。	現在、看取りはされていない。 契約時に重度化した際の指針を説明されているが、実際に看取りの段階が来れば、ご家族に、改めてグループホームの体制や出来る事などを説明し、その上で看取りの希望があればその際に、対応等検討する方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャートを作成し、職員全員が急変などに対応できるようにしている。訓練については今年度内に実施する予定。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院や同法人の施設と合同で年に2回避難訓練を行っている。	避難訓練は、日中想定と夜間想定で、法人内施設三事業所合同で行っている。出火点は毎回変えており、入居者様と一緒に階段を下りて避難されている。地域住民の参加はないが、隣接する病院スタッフも避難誘導に加わり参加されている。 自然災害訓練はされていない。 ホームに備蓄は、使い捨て食器と缶詰等がある。 法人内の別事業所との連携体制が確立出来ている為、心強い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつ後の確認もコールを鳴らして頂いたり、周りに聞こえないように確認するようにしている。	接遇や虐待、個人情報保護等に関する研修を毎月1回行っており、職員が知識を深める機会がある。 人格の尊重やプライバシーに関しても理解・認識があり、特に言葉遣いに関しては注意されている。敬語を心がけられており、目上の方として丁寧に接するようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の準備等職員と一緒にいることで、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子、表情や、体調などを考慮し、その時に応じて対応を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度のペースで散髪にきて頂いている。また、着替える洋服等は職員と一緒に選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、食器洗いを無理のない範囲で行ってもらっている。 食事形態も入居者に合わせてとろみをつけたり、ミキサーにかけたり、テレビを消し、音楽を流して食事が楽しめるように取り組んでいる。	現在、食事のお手伝いをされる方は2名程度おられる。能力があってもされない方もおり、強要はしていない。食事は配食サービスを利用されており、栄養管理は出来ている。届いた食材を簡単に調理するタイプで、入居者様からのリクエストで他の食事にする時もあり、そのような時は配食を止めることも出来る。最近では、「お寿司が食べたい」と言われ提供されたとの事。また、行事でおやつ作りをすることがあり、フルーツポンチやパンケーキなどを作られていた。食べたいおやつの持ち込みをされている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じて食事介助を行ったり、食事形態を変更して対応している。 月に一回、体重測定を行い、体重の増減をみている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、ご自分で出来ない方は職員が支援している。 夜間は入れ歯を預かり毎日洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄のパターンの把握に努めている。車椅子の方でも希望があれば、トイレでの排泄を行っている。失禁された際も速やかに対応している。	現在、日中は全員トイレを使用されている。布パンツの方も2名いらっしゃる。 夜間は、オムツが2名で、それ以外はトイレで排泄されている。 失禁等には職員が介入することが多い。失禁が減ったり、オムツからトイレになった方はいないが、排泄パターンの把握には努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼の体操や食事以外での水分補給を心掛けている。必要な方には下剤も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に無理強いせずに入浴して頂いている。入りたくない等の意向があった場合は翌日に対応をして、意向を反映できるよう支援を行っている。	入浴は、週3回ある。時間帯や曜日は一応は決められているが、拒否が強い方は毎日声をかけてみたり、毎日入りたいと要望があればできる限り反映したいとの事。可動式の手すりがあり、浴槽にも手が掛けられるようになっている。マンツーマンでの対応でもあり、安全面は確保できている。シャンプー類は準備されているが、こだわりの物があれば持ち込みしても良い。入浴後は必ず保湿剤を塗布されている。入浴後化粧水を塗布される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	10時に新聞の読み聞かせ等を食堂で過ごされている利用者様に行っている。また14時30分から全体レクを行っており、その他は自由に居室に戻り休憩したりして過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテに薬剤情報提供書を挟めており、全ての職員が閲覧できるようにしている。また不明な点は看護師に相談できるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備等その方に合ったことを無理のない範囲で行ってもらっている。レクリエーションも毎日行っている。趣味活動についても取り組めるようカンファレンスで話し合いを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出の機会はない。家族のみガラス越し面会を行っている。	現在は、新型コロナウイルス感染予防対策で外出できないが、バスハイク(降車しない)と敷地内散歩は行っている。最近のバスハイクでは、2台に分けてこいのぼりを見に行ったとの事。 外出はなかなか出来ないが、ホーム内での行事は積極的に行われており、夏祭りや敬老会など楽しまれている様子は、毎月発行されているあかり便りで分かる。あかり便りはホーム内に掲示され、ご家族にも配布されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所の立て替えとなっている。家族様了承のもと現金を所持されている方もおられる。お金の支払いについては、認知症もある為、施設にて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。携帯電話を持たれている方もおられ、家族様と話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾りを行ったり、皆様が作られたものや写真を掲示したりしている。	廊下は障害物がなく、安全に移動できる。また、入居者様の塗り絵などを掲示されている。リビングは、大きな窓に日が差し込み、一角に畳の小上がりがある。日中くつろげる空間となっている。本やレクリエーションの備品も準備されており、日中の活動に利用できる。トイレは3か所あり、車椅子もゆったり入れる広さがある。清掃は職員と入居者様とでされており、消毒や大掃除もきちんとされている為、嫌な匂いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、食堂にて過ごされる利用者様同士での交流はみられている。居室で休みたい利用者様は居室で休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物や、使い慣れたものを持って来て頂いている。	居室には、ベッドとタンス1台は備え付けだが、他は持参となっている為、寝具類やその他必要なものは自由に持参されている。テレビやラジオ、座椅子、仏壇を持参されている方もいる。家具等は、入居時に入居者様に確認してもらって配置しており、使い勝手の良いようにされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	車椅子の利用者様についてもADL維持の 為、自操で動いて頂いたり配慮をしている。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない